

## 研究主題「社会的自立に必要な規範意識を育む指導

### ー生活指導統一基準に明示された規律・規範の向上を通してー」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
都立豊島高等学校 主任養護教諭 戸塚 美由記

#### 第1 研究のねらい

少子高齢化や地域社会における人間関係の希薄化が進むなど、社会状況の急激な変化に伴い、生徒を取り巻く環境も大きく変化し続けている。こうした社会状況の変化により、家庭・地域社会・学校において、生徒の規範意識を十分に育むことが難しくなっている。

都内公立小・中学校においては、平成25年度から東京都独自の道徳教材の活用等により、発達段階に応じた道徳教育が推進されている。一方、都立高校においては、都立高校改革推進計画の中で「生徒の素行に関する苦情が増加し、一部に授業規律の乱れが見られるなど、規範意識の低下がうかがえる」と課題が指摘されている。このため、東京都教育委員会は、都立高校生が基本的なルール・マナーを理解し、実践する力の向上を図るとともに、自らの行動に責任をもつ意識を育むことを目的として「生活指導統一基準」を策定し、全都立高校において生活指導の充実を図ることとした。（平成25、26年度先行実施。平成27年度全校実施予定）

本研究は、生活指導統一基準で示された、全教員による組織的な規律・規範に関する指導を一層効果的に行うために、生徒の成長過程における規範意識獲得の体験不足を補い、規範意識の自律的な向上を図るための手だてを明らかにし、その有効性を検証することとした。

#### 第2 研究仮説

規律・規範について考え実践する学習活動に、話し合いや発表、相互評価などの、人間関係<sup>1</sup>を築くための手だてを加えることにより、規範意識<sup>2</sup>を自律的に高めることができるであろう。

#### 第3 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

- ・ 生徒指導提要（平成22年3月）、東京都教育ビジョン（第3次）、都立高校改革推進計画、平成23年度都立高校生の現状把握に関する調査、平成23年度都立高校白書、生活指導統一基準を精査し、高校生の規範意識の現状と対策について理解を深めた。
- ・ 教育基本法、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説特別活動編により、ホームルーム活動の目的や意義、求められる役割、生活指導との関連について確認した。
- ・ 規範意識に関する先行研究から、高校生の規範意識に影響を与える要因を分析した。

##### 2 調査研究

平成26年6月末、都立高校夜間定時制課程生徒126名を対象に、生活指導統一基準に基づき、規範に関する生徒の意識と実践の状況及び人間関係について、質問紙調査を実施した。

##### (1) 調査方法

質問項目は、「①規範に関する意識」、「②規範に関する実践」についての各7項目（ア挨拶、

<sup>1</sup> 本研究では「所属する集団において、成員が自己理解・他者理解を深め、その集団における役割を果たすことにより自己有用感を高め、自己の存在を実感できるような成員相互の関係」と定義した。

<sup>2</sup> 本研究では「所属する集団において、その集団が円滑に機能するような望ましい判断や行動を、その成員が自ら行おうとする心の働き」と定義した。

いきまりの遵守、ウ時間を守ること、エ時と場に応じた所作、オ言葉遣い、カ公共物の扱い、キ公共の場での態度)、「③人間関係」についての5項目(ア集団の中での役割、イ役割の実践状況、ウ話し相手、エ気持ちの理解者、オ他者との交流意欲)とした。①～③の結果について以下のとおり、4件法<sup>3</sup>により点数化して分析した。

意識	意識の高いものから降順に点数化し、合計得点を【意識得点】とした。
実践	実践状況が良好なものから降順に点数化し、合計得点を【実践得点】とした。
人間関係	人間関係が良好なものから降順に点数化し、合計得点を【人間関係得点】とした。

## (2) 調査結果の分析と考察

- ① 意識得点と実践得点の平均値についてt検定<sup>4</sup>を実施したところ、実践得点よりも意識得点の方が高いことが明らかになった。このことから、ルールやマナーが分かっているにもかかわらず実践できていない実態がうかがえる。
- ② 意識得点、実践得点、人間関係得点のそれぞれの組合せについて相関分析を行ったところ、いずれの組合せも相関関係が見られることが分かった。
- ③ 意識得点、実践得点、人間関係得点について、重回帰分析<sup>5</sup>を行ったところ、意識得点が高いほど実践得点も高くなることが分かった。規範に関する意識が高いことは、規範の実践にプラスの影響を与えていると考えられる。また、人間関係得点が高いほど、意識得点と実践得点も高くなることが分かった。良好な人間関係を築くことは、規範に関する意識と実践のいずれにもプラスの影響を与えていると考えられる。

## 3 開発研究

調査結果の分析と考察に基づき、話し合いや発表、相互評価などの人間関係に着目した手だてを取り入れた学習活動「みんなで取り組もう！マナー・マイスタープロジェクト2014」を開発した(表1)。

テーマ：みんなで取り組もう！マナー・マイスタープロジェクト2014		
	学習内容	学習活動 ◎=人間関係を築くための手だて 【期待される効果】
第1時	文化祭の来校者への適切な接遇を知る。	・来校者への適切な接遇について考える。 ◎ペア又はグループで話し合い、発表する。【自己理解・他者理解】
第2時	来校者への適切な接遇について個人目標を決定する。	・来校者への適切な接遇について、前時のワークシートをまとめたプリントを参考に、自分の目標を決定し、文化祭当日に掲示する各自の目標が記入できる用紙に記入する。 ◎ペア又はグループで話し合い、発表する。【自己理解・他者理解】
文化祭	来校者への適切な接遇を実践する。	・文化祭のクラス企画を通して、来校者への適切な接遇を実践する。 【自己理解・他者理解、自己有用感】
第3時	文化祭での実践の振り返りと今後の生活での実践を考える。	・文化祭での接遇を振り返り、今後の生活でどのように実践するかを考える。 ◎文化祭での実践について相互評価を行い、ペア又はグループで話し合い、発表する。 【自己理解・他者理解、自己有用感、自己の存在を実感】
<b>【授業形態の工夫】</b> 2クラス合同のホームルーム。担任2名、副担任1名、養護教諭1名によるティーム・ティーチング <b>【指導方法の工夫】</b> ①人間関係を築くための手だて(話し合い・発表・相互評価)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに自分の考えを記述させ、話し合いや発表の準備をさせる。</li> <li>・発表はインタビュー形式で行う。</li> <li>・個々の生徒を評価するのではなく、「実践されていた適切な接遇」についての評価をさせる。</li> </ul> ②適切な所作や接遇について(ワークシートの工夫) <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめ、振り返りをする活動を重視し、単元を通してワークシートに記述させる。</li> <li>・各時間のねらいをテーマに沿って明示した。第1時「マナー・マイスターの条件を知ろう」、第2時「めざせ！マナー・マイスター：準備編」、第3時「マナー・マイスターへの道：収穫編」</li> <li>・振り返りの自己評価は、4件法で実施する。</li> </ul> <b>【教材等の工夫】</b> ①卒業生の高校生活を振り返るアンケート結果のクイズや、卒業生からのメッセージ ②文化祭当日に掲示する、各自の文化祭での適切な接遇の目標が記入できる掲示用紙		

表1 題材の指導計画(3時間扱い)及び指導上の工夫

<sup>3</sup> 四つの選択肢から回答を得る方法

<sup>4</sup> 二つの母集団がいずれも正規分布に従うと仮定した上で、平均が等しいかどうかを判定する方法

<sup>5</sup> ある要因(説明変数)が、ある要因(被説明変数)に対してどのように影響するのかを調べる分析方法。説明変数が二つ以上ある場合を重回帰分析という。

## 4 検証授業

### (1) 概要

検証授業は、都立高校夜間定時制課程の第1学年生徒50名の合同ホームルーム活動において、実施した。生徒の出席状況は表2のとおりであった。検証授業と文化祭の全てに出席した生徒は19名、事前・事後調査も含め、  
 全てを通して出席した生徒は12名であった。

6月30日 事前調査	9月8日 検証授業 第1時	9月22日 検証授業 第2時	10月4日 文化祭	10月8日 検証授業 第3時	10月9日 事後調査
32名	31名	27名	30名	28名	26名

表2 生徒の出席状況

### (2) 規律・規範について【授業の様子・ワークシートから見た生徒の変容】

第1時では、「文化祭来校者への適切な接遇」について、ワークシートに記入された内容は、挨拶、言葉遣い、笑顔、マナー、態度、相手の気持ちを考えた行動、校内美化など延べ59項目であった。これらは、生活指導統一基準に示された「時と場に応じた、身なりや所作がきちんとできる生徒」、「相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒」など、文化祭においても必要とされる具体的な内容であった。

第2時「来校者への適切な接遇について個人目標を決定する。」では、「言葉遣いに気を付けて接客する。将来知らない人と会うことが多くなるので、今のうちに練習をしたい。」という生徒の発表や記述があった。これは、表1の教材等の工夫で示した「マナーや言葉遣いは急には身に付かない。」など、卒業生からのメッセージを自分の課題として捉えて表現したものである。

第3時「文化祭での実践の振り返りと今後の生活への生かし方を考える。」では、表3で示す生徒Aの記述にあるように、アルバイトなどの仕事をする中で他律的に獲得した規範に対する意識をもっている生徒であっても、生徒自身が立てた目標について実践し、そのよさを実感することは、規範意識の自律的な獲得の動機付けとなっていることが分かる。

表3に、事前調査で人間関係得点が平均点以下だったが、事後調査で人間関係得点が向上し、平均点に達した生徒Aがワークシートに記述した、規律・規範についての内容を示す。

	ワークシートの項目 【規律・規範について】	記述
第1時	お客様に笑顔で帰っていただけの文化祭とはどのようなものか	お客様に対してしっかりとしたマナー、接客態度をする。 楽しくおもしろい文化祭にする。
第2時	文化祭での自分の目標	<u>みんなが考えた</u> マナー・マイスターの条件を、しっかり身に付けて文化祭を行う。
文化祭	実践して気付いたこと	自分の目標を達成できたと思う。やはり丁寧な言葉遣いは人の気持ちをよくすると思った。笑顔で帰っていった人が多くて嬉しかった。
第3時	今後の生活に取り入れ生かそうと思うこと	僕は仕事をしているので、お客さんに対する言葉遣いをよくするのは当たり前なのですが、文化祭を通して言葉遣い、敬語のよさを知ったので、仕事やいろいろな所で言葉遣いをさらによくしていこうと思いました。

表3 生徒Aのワークシートの記述内容① ※下線部は他者についての記述を示す。

### (3) 人間関係を築くための手だてについて【授業の様子・ワークシートから見た生徒の変容】

検証授業3時間を通して、話し合い・発表を実施した。話し合い・発表を活発に行うことに慣れていない生徒への配慮から、事前に担任・副担任と情報交換・協議を行い、生徒同士の授業前の人間関係に配慮してグループづくりを行った。発表はインタビュー形式で行った。机間指導でワークシートの記入状況や、個々の生徒の様子を確認し、発表について配慮が必要な状況にある生徒は、教員が代わりにワークシートを読み上げて発表を実施した。

表4に生徒A（表3と同一の生徒）がワークシートに記述した、人間関係を築くための手だ

てについての内容を示す。

	ワークシートの項目 【話し合い・発表・相互評価について】	記述
第1時	話し合いや発表を聞いての感想・考え	<u>みんな考えている事は同じで、やっぱり一番は楽しい文化祭にすることがよいと思います。その上で、お客さんが来るので、それなりのマナーや接客態度など、しっかりやらなければいけないと思います。</u>
第2時	話し合いや発表を聞いての感想・考え	<u>みんなしっかりと自分の目標をもっていることにすごいと思ったし、具体的な理由も言えて、よい文化祭になると思います。</u>
文化祭	他の人のよい実践	<u>みんな、いろいろ文句を言いながらも、その人なりに一生懸命がんばっていた。具体的には当番ではないのにいてくれたり、しっかりと接客もしていてよいと思った。</u>
第3時	話し合いや発表を聞いての感想・考え	<u>しっかりと一人一人ががんばっていて、すごくよい文化祭になったと思いました。</u>

表4 生徒Aのワークシートの記述内容② ※下線部は他者についての記述を示す。

#### (4) 検証授業の事前調査・事後調査の分析結果及びワークシートの感想分析結果

検証授業前と検証授業後の規範に関する生徒の意識と実践の状況及び人間関係についての調査において、数値の変化に有意差はなかったが、検証授業後の調査において、人間関係得点が平均以上だった生徒と、そうでない生徒について、第3時のワークシートの感想欄の記述にどのような違いが見られるか、t検定を行い分析した。

分析の結果、人間関係得点が平均以上の生徒は、そうでない生徒と比較して、「相手の立場や時と場を考えること」「集団への参加と人と関わる際の態度の改善」「実践意欲」に関する記述が多く見られた。このことから、検証授業後、所属する集団での人間関係が良好な生徒は、交流の場に参加して、相手の立場や時と場を考えた態度や行動を考え、自分から実践しようとする気持ちをもっていることが分かった。

#### 第4 研究の成果

- ・ 生徒自身が規律・規範について考え、人間関係を築くための手だてを用い、実践し、振り返りを行うことで、規範意識が自律的に向上することが明らかになった。
- ・ 多様な経験をもつ生徒が多数在籍する夜間定時制課程において、生徒の実態に応じた指導の工夫を行うことにより、話し合いや発表などの活動を盛り込んだ指導計画に沿った指導ができた。
- ・ 生徒が実践を通して規範を守ることのよさを感じとり、規範意識の自律的な獲得が確認できた。高校生の規範意識を自律的に向上させるためには、学校において規律・規範についての実践の機会を設定することが必要であることが分かった。

#### 第5 今後の課題

- ・ 高等学校において、生徒の規範意識を自律的に向上させるためには、学校において規律・規範についての実践の機会を設定し、人間関係を築くための手だてを取り入れた学習活動を行う必要があることを全職員で共通理解し、組織的に取り組む。
- ・ 入学から卒業までの4年間を見通した、「規律・規範について考え、実践の機会を設定し、人間関係に着目した手だてを取り入れた学習活動」の年間指導計画を作成し、継続的に実施する。